

キク科の新帰化植物キレハクロアザミ (新称)

北見市 内田 暁友

美唄市 新田 紀敏

北海道北見市でキレハクロアザミ (新称) *Centaurea stoebe* L. subsp. *australis* (Pančić ex A. Kern.) Greuter を確認した (図 1)。本種はヨーロッパ原産の多年草で、これまで北アメリカに広く帰化し spotted knapweed の英語名で知られている (Keil and Ochsmann 2006 : *C. stoebe* subsp. *micraonchos* (S. G. Gmel. ex Gugler) Hayek として)。また、IUCN は「世界の侵略的外来種データベース」において本種による主に放牧地での被害を報告している (Invasive Species Specialist Group 2015. The Global Invasive Species Database, version 2015.1. <http://www.iucngisd.org/gisd/>, 2021 年 12 月 3 日閲覧 : *C. biebersteinii* DC. として)。

確認されたキレハクロアザミは以下のような形態であった。これらは Keil and Ochsmann (2006) および Španiel et al. (2008) において *C. stoebe* の種内分類群のうち、4 倍体で北アメリカへの帰化が報告されている亜種 subsp. *australis* の記載とほぼ一致した。なお、学名は Greuter (2003) に従った。

多年草で、ロゼットで越冬する。1-多数の花茎を出す株となり、短い地下茎を伸ばす。花茎は高さ 15-150 cm で稜と綿毛があり、上部は分枝して円錐状に頭花をつける。葉には綿毛と透明な腺点があり、葉縁と表面の主に葉脈上に上向きに曲がった短毛がある。花茎中部以下の葉は長さ 5-10 cm の楕円形-広楕円形、1-2 回羽状に深

裂し、裂片は線形-狭楕円形で幅 1-3 mm、花茎上部に向かって葉は小さく細く、全縁になる。根生葉は狭楕円形で全縁-深裂、葉柄を含めて長さ 20 cm に達する。頭花は直径 22-43 mm。総苞は長さ 10-12 mm、幅 5-6 mm。総苞片は 6-8 列で、総苞内片は 10 × 1.5-1.8 mm、中片は 9 × 2-2.5 mm、最下部で 1.5 × 3 mm、付属体は濃紫-褐色で縁に毛状の突起が並び、白色膜質のものを除いて総苞中片で片側に 4-7 本。小花は筒状花で紅紫色、内側は両性花、外側は無性花になる。花床には毛が密生する。瘦果は倒卵形で長さ約 3 mm、4 肋とその間に目立たない肋があり、全体に毛が散生する。冠毛は多列で約 1.5 mm、白色で上向きの刺針がある。

キレハクロアザミは国内に分布するヤグルマギク属のなかでは帰化植物のクロアザミ *Centaurea nigra* L. に似る。しかし、(1) 茎の中部の葉の切れ込みがより深く、クロアザミの葉では全縁-深裂であるのに対し、キレハクロアザミの葉は 1-2 回羽状に深裂し、最終裂片がより細く伸びること、(2) 総苞が小さく、クロアザミでは腊葉標本の状態で長さ 15 mm 以上あるのに対し、キレハクロアザミでは 13 mm 以下であること、(3) 総苞片の付属体の縁にある黒色の毛状突起がまばらで、クロアザミでは片側に 10 本以上が密に並ぶのに対し、キレハクロアザミでは 7 本以下 (白色膜質のもの

のを除く）であることで区別できる。

キレハクロアザミの和名はクロアザミに似るが葉の切れ込みが深く、裂片が細い(1)の特徴を表したものである。

本種の北海道内への侵入経路は不明だが、現在は北見市端野町の道道 308 号に沿った約 6 km（忠志橋周辺から国道 38 号への接続地点）が分布の中心とみられ、明

るく乾燥した草地や裸地、舗装の間隙に群生し、7-10 月に開花が確認された。開花期にはよく目立ち、この生育地はすでに 2008 年 10 月に「数 km にわたってこの花が見られ」る状況がウェブ上に投稿されている(著者不明 2008. クロアザミ? セントレア・ストエベ? 北見市端野町. <https://ameblo.jp/hakobesuki/entry-12543559737>).

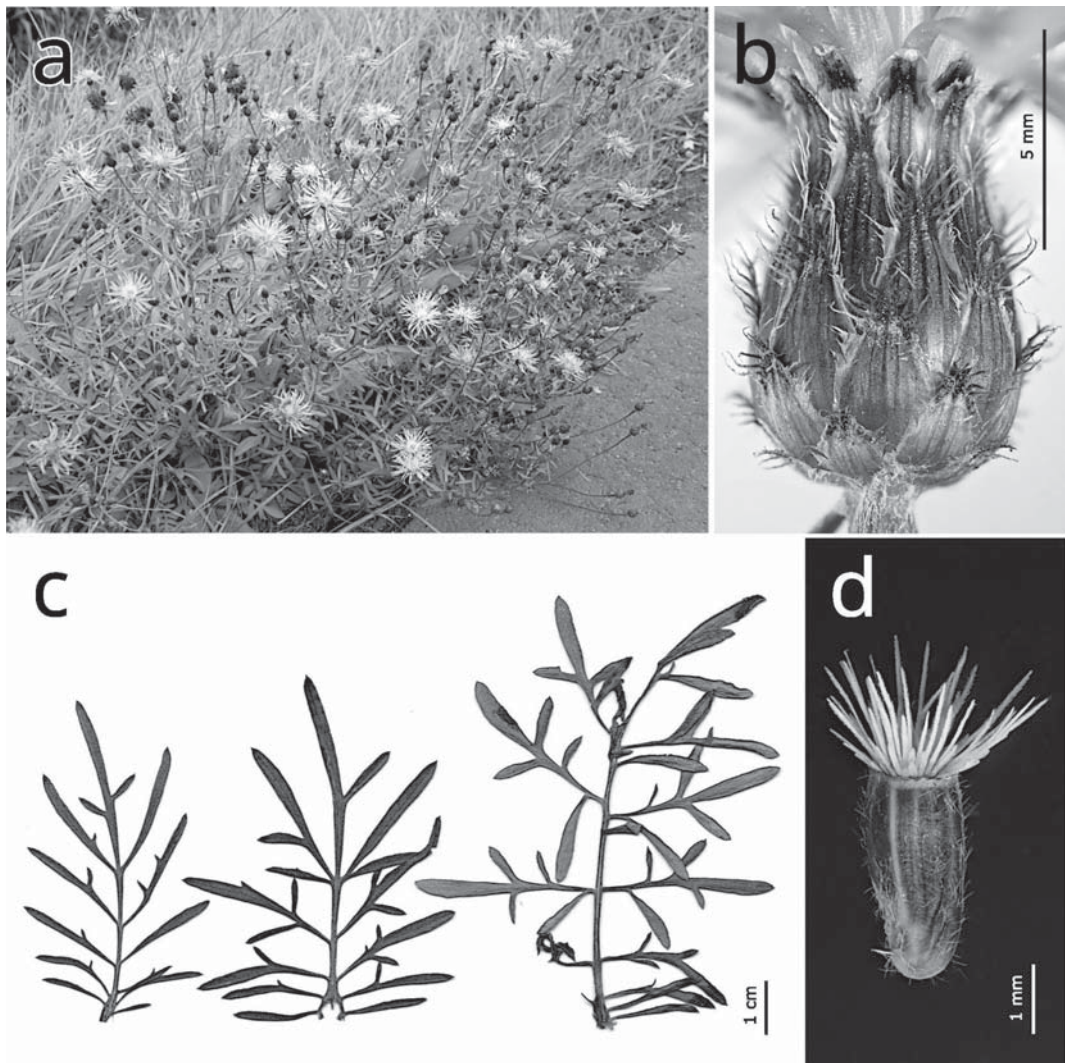


図1 キレハクロアザミ *Centaurea stoebe* subsp. *australis*
a: 生育地 b: 総苞 c: 花茎中部の葉 d: 瘦果 撮影: 内田暁友

html, 2021年12月3日閲覧)。なお、国道38号など周辺の道路でも同様の環境には多数の開花個体がみられるため、今後の分布拡大には注意が必要である。

本研究を行うにあたり、SAPSの管理者である首藤光太郎助教に標本閲覧の便をはかっていただいた。記して謝意を表す。

証拠標本

北海道網走地方：北見市端野町忠志。常呂川流域。43°55'16.23" N, 143°58'00.50" E, ±12 m, WGS 84. 20–30 m alt. A. Uchida, Oct. 1, 2021. SAPS 62474.

引用文献

- Greuter, W. 2003. The Euro+Med treatment of Cardueae (Compositae): generic concepts and required new names. *Willdenowia* 33: 49–61.
- Keil, D. J. and Ochsmann, J. 2006. *Centaurea* L. *In*: Flora of North America Editorial Committee (eds.), *Flora of North America north of Mexico* 19. pp.181–199. Oxford University Press, New York.
- Španiel, S, Marhold, K, Hodálová, I and Lihová, J. 2008. Diploid and tetraploid cytotypes of *Centaurea stoebe* (Asteraceae) in central Europe: morphological differentiation and cytotype distribution patterns. *Folia Geobot.* 43: 131–158.